

「偶然」と「失敗」が 七段構えの戦法を生んだ



日本海海戦に向けて、連合艦隊参謀・秋山真之が考案した「七段構えの戦法」。それは、朝鮮半島の南西に位置する済州島から、ウラジオストック沖の海域を七段に区分し、夜間の水雷艇隊の奇襲攻撃と、日中の連合艦隊主力による攻撃を四日間にわたり繰り返すことで、ロシアのバルチック艦隊を全滅させるという計画です。

この戦法が生まれた背景には、「偶然」と「失敗」がありました。

秋山は古今東西の兵法書や戦術書から着想を得て、この戦法を考案しました。その際に最も参考にしたのは、室町・戦国の時代に瀬戸内海を制覇した村上水軍の戦術とされています。

実は後世の調べで、秋山が村上水軍の末裔だったことが分かりました。偶然とはいえ、運命的なものを感じざるを得ません。

そして、日本海海戦の九カ月前。黄海海戦で連合艦隊は丁字戦法により、一列になって進んでくるロシア旅順艦隊の頭を押さえようとしてます。しかし旅順艦隊は決戦を避け、逃走を図り

ました。

丁字戦法は向かってくる敵に対する有効な戦法であり、逃走しようとする敵は逃がしてしまいう欠点を抱えていたのです。結果、旅順艦隊の大半を逃がしてしまつたことで、日本海の制海権を完全に握ることができず、兵站を脅かされることになりました。

「新たな戦法を」——黄海海戦と同様、敵艦を全滅させることが至上命題である、バルチック艦隊との海戦に向けて秋山が編み出したのが、「七段構えの戦法」でした。

「偶然」起用した先祖の兵法、そして黄海海戦での「失敗」。これらが重なり合うことによって、日本海海戦を完全勝利へと導く、秋山の戦術は生まれたと言えるかもしれません。



「三笠艦橋の図」の秋山真之

三笠だより

今回のテーマは天才参謀・秋山真之。その素顔をぜひ「記念艦三笠」でご覧ください。

海外でも人気だった色男

秋山真之は大学予備門（第一高等学校の前身）で、正岡規や夏目漱石と共に学びました。金や出世や女、めしより戦術が好きだったと言ふ、根っからの戦術家・秋山。彼は「天才」と呼ばれると同時に、多くの奇行でも知られています。

寝るときでも靴を脱がない。食事においては、自分が平らげると、上官がまだ食べているにもかかわらず、平気で靴下を脱いで足を掻く……。

「記念艦三笠」士官室前にある、連合艦隊司令部の集合写真を見ると、その片鱗を感じることが出来ます。皆が手袋をして軍刀をまつすぐ持ち、威厳のある姿で写る中、秋山は手袋をせず、軍刀は傍らに無造作に置き、少しふんぞり返つたような姿。

およそスマートな軍人には似つかわしくない振る舞いですが、アメリカやイギリスの社交場などでは、かなり女性から好感を持たれていたそうです。

その理由に、目鼻立ちのしっかりした顔立ちといった、外見の良さが挙げられますが、それだけではありません。写真に表れるように、彼の飾らない自然体な雰囲気、世の女性を虜にするのではないでしょう。

今月のおすすめ商品

Z旗カフスセット、2980円（税別）。前回おすすめした「Z旗ネクタイ」と揃えてみては。

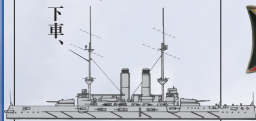
今月の読者特典

『歴史街道』二〇一九年一月号を三笠受付で見せると、先着10名様にZ旗ピンバッジをプレゼント！



記念艦三笠

観覧料金
大人 600円
65歳以上 500円
高校生 300円
小中学生 無料
京急横須賀中央駅もしくは
JR横須賀駅より
三笠循環バスで「三笠公園」下車、
徒歩1分



TEL : 046 (822) 5225
<http://www.kinenkan-mikasa.or.jp/>
神奈川県横須賀市稲岡町 82-19